

(5)環境負荷を定量化する環境ラベリングの意義

2月5日、「グリーンコンシューマー&グリーンサプライヤー」と題するエコマーク市民集會が行われた。

我が国のもっとも古い環境ラベリングであるエコマークを知っている人は多いが、実際にエコマーク商品を購入する消費者はそれほど多くはない。もっとエコマークが活用されるためにはどのような取り組みが必要か、そんな趣旨でこの集會は持たれた。エコマーク商品は、古紙やペットボトルのリサイクル商品が多く、地方自治体によるグリーン調達に利用されている例が多いが、意外と日用雑貨や電気製品等、消費者が日常、購入する頻度が高い商品はそれほど多くなく、またスーパー等では余り見かけないために、普及が広がらないようである。また、文房具の大半がエコマーク商品であったり、スウェーデンでは4歳児が言葉を知る前に、ノルディック・スワンやグッド環境チョイスなどの環境ラベリングを知っているということがパネリストのペオ・エクベリさんから紹介され、環境ラベリングの普及に環境教育が大きな役割を果たすことなども話し合われた。当日提起された一つの課題について触れてみたい。

消費者がエコマーク商品を購入する際、その購入がどれだけ環境保全に貢献しているかを認識できることが重要である。そこで、商品のライフサイクルにおける環境負荷を定量的に表示するタイプ3の環境ラベリングの役割が重要になる。現在、EUでは、グリーン購入の効果についての定量分析を進める動きがある。実際、「ローカルな環境イニシアティブのための国際会議」(ICLEI)は、ウィーンやドレスデンやデンマークの工科大学などと協力して、グリーン購入の定量的な調査を行っている。最近の調査によると、EUでは毎年、280万台以上のパソコンが公共機関によって購入されているが、現在のパソコンをドイツのブルーエンジェルやスウェーデンの電磁波の環境ラベリングであるTCOなどのラベリングを有する環境負荷の少ないグリーンパソコンに切り替えると、二酸化炭素表示で83万2320トン削減することができるという。

この数字は、人口当たりで表示すると10万1503人のグローバルな人口の二酸化炭素排出量の削減につながるという。さらに、公共機関が再生可能なグリーンエネルギーを購入すれば、二酸化炭素は6135万363トン削減することができ、それは人口数で見ると367万6492人のヨーロッパの人口(ベルリンの総人口)の排出量に匹敵し、この温室効果ガスの削減量は京都会議で合意されたEUの削減量の4分の1に相当するという。なお、環境負荷の定量分析では、すべての環境負荷を示すのではなく、改善の効果が大きい環境負荷要因を中心に定量化するということが行われており、定量化される商品はバスなどの交通機関、水洗トイレ(水の使用量の削減)、食料(有機農産物)等にも応用されており、興味深い調査が行われているようだ。

わが国でも、エコマーク商品の販売数の増加とともに、環境保全の効果が適宜、インターネットなどを通じて定量的表示されたら、きっと消費者もエコマーク商品の購入を増やすに違いない。

以上